

未来創造人

東北支店
仙台営業所
さかくち ひろのり
坂口 大徳

故郷の宮崎県都城市から遠く離れた仙台営業所に着任し、今年で8年目。聞き慣れない仙台弁に戸惑ったのも最初だけで、物おじせず現場に飛び込み、施工管理者としてのスキルを積み重ねています。

2021年から、山形自動車道の舗装工事に従事。「経験豊富な先輩の下で、いろいろ勉強させてもらいました。橋梁の床版防水は初めて経験しましたが、覚えればきっと強みになると思い、材料や効果についてたくさん質問しました」と話すとおり、大切にしている



現場で得た学びを

強みに変えてステップアップ

のは「聞く」ということ。上司や先輩の仕事ぶりを見て学び、わからない点は正直に聞いてみる。そんな実直な姿勢と、各工事を無事完遂した実績を評価され、さらに2023年から請け負った工事で班長を務めることに。「不安もありますが、やるからには無事故でミスのないよう頑張りたい」と意気込みを語ってくれました。趣味は大型オートバイ。休日には協会会社の人と山形の月山や福島の猪苗代湖までツーリングすることもあるのだとか。山形で坂口さんに任された新たな道へもまた、全力でアクセルを踏み込もうとしています。

きっと、未来に続く道

KIT PLUS

特集

働き方を変える、
鹿島道路のイノベーション



THE PROJECT



THE PROJECT - Creating the future-

特集 鹿島道路のイノベーション

分業プロジェクト

一人ひとりをもっと活躍できる働き方を実現したい。そのために業務の内容を抜本的に見直し、より効率的な高い生産性の実現を目指して鹿島道路が挑んだ「分業プロジェクト」。2023年山形の地で始まった山形自動車道管内の工事(R5)を例に、その取り組みをご紹介します。

■ 山形自動車道管内の工事名称

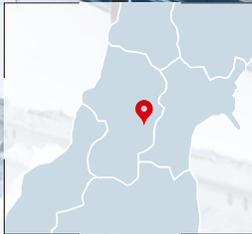
2022年から施工 → R4

2023年から施工 → R5

About the Project

山形自動車道 R5山形管内
舗装補修工事(下り線)

発注者：東日本高速道路株式会社 東北支社
工期：2023年1月26日～2025年1月14日
工事場所：山形自動車道
(宮城川崎IC～月山IC)および
東北中央自動車道
(米沢北IC～東根IC)
工事内容：オーバーレイ工、
切削オーバーレイ工、
床版防水工 ほか



Kajima Road

Innovation

撮影地：山形自動車道月山湖PA(山形県西村山郡)

革新

「働き方改革」と「工期順守」の両立は建設業の大きな課題です。これまで鹿島道路はICT施工やDXツール導入など、現場支援を通じて改善に着手してきました。さらに今、新しいイノベーションとして「分業プロジェクト(BPO[※])」を導入。その様子を中心メンバーである工藤さんと菊池さんに伺いました。

※BPO
Business Process Outsourcing
の略。企業活動における業務プロセスの一部を外部の専門業者に委託すること

分業プロジェクトの活用で業務効率化を実現

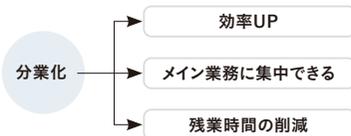
新プロジェクト導入の舞台は東北支店山形出張所。2022年2月から実施した山形自動車道の補修工事(R4)がきっかけでした。大規模な道路工事では、車両の通行規制をするため、施工時間が限られています。そのため現場では早朝から打ち合わせが始まり、日没まで工事を行い、終了後は片付け。事務所に戻って行う書類作成などの業務は残業で対応せざるを得ない状況でした。

そんな中、ワーク・ライフ・バランスの実現と工事担当者がメイン業務に専念できる環境を整えるべく、2023年1月の「R5工事」開始のタ

イミングでBPOがスタートしました。中心となって進めたのは、2023年に鹿島道路に入社した、山形出張所の菊池さん。

オンラインで専門業者と打ち合わせを重ね、まずは電子黒板をはじめとするITツールの導入を検討。その上でBPOを円滑に行うため、委託する業務の範囲や依頼方法、進捗確認の手段など、業務の体

● BPOのメリット



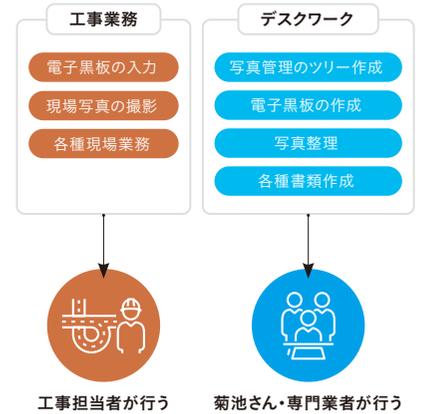
● 分業プロジェクトをメインで担当

東北支店
山形出張所
まぐち みさ
菊池 美紗



初めは手探りでしたが、
今では自信を持って業務に取り組んでいます

● BPOの業務分担イメージ



系化の詳細を決定しました。これにより工事担当者から、

- アナログ黒板の記入や管理
- 工事現場で撮影した写真の整理
- 各種書類の作成

といった業務そのものを切り離すことを実現しました。

成功の鍵は、工事担当者が個別に処理していた各種業務を集約し、専門業者へアウトソーシングする分業化でした。

菊池さんの存在が現場に新たな風をもたらしてくれました

働き方が変わる、現場の空気が変わる

そんなプロジェクトの中心的存在、菊池さんも初めは専門知識もないまま参画し、専門業者の提案に沿って業務を進めていました。その後、わずか1年足らずで活躍できているのは「現場の皆さんが仕事を任せてくれたことが大きかった」そう。不明な点はすぐに現場管理人の工藤さんに相談し、繰り返し取り組むうちに知識も増え、今では協力会社からの問い合わせにも回答できるまで成長しました。

その様子を工藤さんは「システム

や環境変化への対応が柔軟。細かい記載ミスを見つける能力にも長けていて、書類の精度も上がった」とした上で「かなりの戦力です」と笑顔で話してくれました。

結果的に分業プロジェクトの効果で1人あたり1日約2時間の残業時間短縮を実現できました。

工事のメンバーも自分の時間を持つことができ、心身のリフレッシュにつながっているそう。

「これまでは日々書類をまとめるのが精いっぱい、余裕がありませんでした。今は本来の業務に集中することはもちろん、今後の見通しを考える余裕が生まれ、現場の空気も変わったように思います」

R5工事は冬季の休工期間をはずさんで4月から再開。メインのアスファルト舗装に加え、床版防水など橋梁の補修工事、衝突事故防止対策のセンターパイプ設置工事などを実施予定です。

R5工事 現場を統括

東北支店 山形出張所
担当課長/現場代理人
くどう けんじ
工藤 健二

実証された分業のフロー図



菊池さん
専門業者



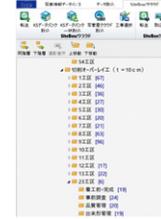
工事担当者

1 写真管理用のツリーを作成

工事の前に、あらかじめ作成

2 電子黒板データをアプリと同期

事前にPCで作成したデータをスマホアプリに同期



1日目

写真整理

3 電子黒板アプリに、情報を入力

現場で入力した数値はクラウド上で管理



4 スマホで現場撮影

・写真右下に黒板が表示される
・撮影写真は自動的に1のフォルダーに工区ごとに振り分けられて格納



電子黒板

5 工事終了

イレギュラーな業務がなければ、残業なしで帰宅

Point

1人あたり1日約2時間の残業を短縮できました！



6 整理された撮影写真で各種書類を作成

菊池さんと専門業者が連携して、チェック。ミスのない各種書類を効率よく作成

現場の要望に添って改善、業務効率UP

要望をヒアリングして、現場に即した形にカスタマイズします！



BPOを委託する専門業者との打ち合わせの様子

2日目

書類作成



電子黒板の導入で、現場の業務負担も軽減されました！

- ・書き換え忘れや、誤記入の修正
- ・雨風などの天候に左右されない
- ・黒板を持ち運ばなくて良い

工事名	山形自動車道 R5山形管内線延伸補修工事 (下り側)
工種	測点 31.300KP
27工区 下り・走行	31.155KP~31.600KP
注意喚起清施工状況	
2023年6月7日	

展開

「働き方改革関連法」の適用開始に合わせ、建築業の各社は時間外労働の上限規制や週休2日制の導入など、労働環境の課題解決が求められています。

継続的な課題解決の鍵は後進の育成

今回の分業プロジェクトは、共通の課題を抱える全国の道路工事現場から数カ所を選び、本店主導のもと、試験的に導入されました。中でも顕著な成果を上げた山形出張所は、社内の関係者が視察に訪れるなど注目が高まっています。

これに対し工藤さんは、自ら率先して水平展開に取り組み、一過性で終わっては意味がないと言います。「取り組みを継続しながら後進を育てていけば地盤は固くなる。そのためにも必ずこのプロ

ジェクトを成功させ、工事を完遂させます」と力強く宣言してくれました。

公共インフラである道路の工事は、車両の通行規制のスケジュールに合わせて行う必要があります。

2024年1月に開かれた「残業抑制意見交換会」では、東北支店の各営業所長などが集まり、対応を検討。1班2～3人のメンバーで残業の年間計画を立て、各人の残業時間が上限を超えないように管理する、作業に対する人数の適正化を図る、現場状況に応じて営業所や支店に応援を依頼するといった案が出されました。現場の最前線で奮闘を続ける鹿島道路のメンバーは、試行錯誤を繰り返しながら、絶えず働き方の改善に取り組んでいます。



山形自動車道R5工事に取り組むチームのメンバー



Voice

分業プロジェクトの視察を終えて

東北支店 工事部 次長
きょうの つかさ
京野 司

2024年4月からの時間外労働上限規制適用に伴い、他の道路工事へ水平展開する目的で山形出張所を視察しました。2年ほど前から書類業務削減の働きかけをしてきましたが、建設業は法律や発注者の仕様書などの決めごとが多く、簡単には削減できないのが現状でした。中でも自動車道の工事は早朝や夜間の作業が伴い、また作成する書類の量も膨大です。

そうした中、山形出張所の取り組みは有効な手段だと考えています。今回の分業プロジェクトは元請け工事が2件重なり、大人数が工事業務にあたる状態でしたが、うまく調整して統制が取れていました。長い時間と労力をかけて現在の状態を築き、成果につながったのだと感じています。

残業抑制を進めていくにはまだ課題も多く、逆に閑散期の対策も併せて検討する必要があります。東北支店としては分業プロジェクトを有効利用して時短に取り組むと同時に、常に書類の削減項目を考慮して交渉や働きかけをするなど、継続して働き方改革を続けていきたいと考えています。

進化

現場の取り組みを 本店がサポート

建設業界の残業問題は、携わるすべての人が「どうにかしなければ」と考えながらも、これまで解決が難しいとされてきました。だからこそ、法改正は多様で柔軟な働き方を取り入れる大きなチャンスと言えるかもしれません。

今回の分業プロジェクトは、「アクションを起こさなければ何も変わらない、とにかくやってみよう」という本店の働きかけによってスタートしましたが、若手社員が中心となり、ITツールや外部のノウハウを借り

ながら、業務の効率化と残業時間の削減を実現。若手や女性社員の活躍は、道路工事をはじめ、公共工事での入札の加点対象となっており、その意味でも非常に意義のある取り組みだと言えます。

ワーク・ライフ・バランスが整った働きやすい職場づくりは、すべての社員はもちろん、将来の担い手を確保するためにも非常に重要なこと。これからも業務改善につながる挑戦に、全社をあげて取り組んでいきます。



鹿島道路の未来をつくる取り組み

山形出張所での分業プロジェクトの導入は、残業削減など有意義な結果につながりました。現場の皆さんが自分たちの職場をよりよくしようという強い意志と努力の表れだと感じています。今般の分業プロジェクトを水平

展開することで、より意欲的に活躍してくれると期待しています。現在は自動車道路工事に特化してBPOを導入していますが、他の工事にも活用・展開したいと考えています。今までの建設業においては、「1から10まですべてで

きて一人前」という考え方が一般的でした。しかし、今回のプロジェクトを契機に、絶対に残業時間を減らすという決意のもと、社内業務を分業化して、エキスパートを育てる体制を整えていく予定です。

✓ Voice



生産本部工事部
インフラリニューアル推進室
担当課長
おにくら かずのぶ
鬼倉 一展

Yamagata 2024



今までも、これからも、
日本の道路を、守り、支え続ける